

宇都宮市立東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」では、肯定的回答が県の平均を10.3ポイント上回っている。また、「自分はクラスの人役に立っていると思う」では20.5ポイント、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」では7.7ポイント県の平均を上回っている。クラスで自分の役割を發揮できていること、家庭で自分の頑張っていることを認めてくれる存在がいることが自己肯定感の高さにつながっていると考えられる。今後も自分の役割を發揮できる場を設けることや、頑張りを認める声掛けを継続していきたい。

○「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」では、肯定的回答が80.0%で、県の平均を12.2ポイント上回っている。昨年度は県の平均を下回っていたが、地図帳を活用する時間を確保するとともに、タブレットを使った地名の検索やグーグルアースなどを活用する等の取り組みによって向上したものと考えられるため今後も継続していきたい。

○「本やインターネットを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」では、肯定的回答が76.7%で県の平均を12.3ポイント上回っている。普段から授業でタブレットや本を利用した調べ学習を取り入れていることがこの結果につながったと考えられる。

●「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」では、1時間以上読むと答えた割合は36.7%で県の平均を4.8ポイント下回っており、「全くしない」と答えた割合は23.3%で県の平均を4.1ポイント上回っている。また、「1か月に何さつくらい本を読みますか」では、「1さつも読まない」と答えた割合が13.3%で県の平均を4.1ポイント上回っている。家庭での読書習慣をつけるため図書館司書と連携をし、様々な本に触れる機会を設けていきたい。

●「家で、学校の宿題をしている」、「家で、学校の授業の予習をしている」、「家で学校の授業の復習をしている」、「家で、学校やじゅく決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の家庭での学習に関する項目で、いずれも否定的回答が県平均の5ポイント以上上回っている。特に予習は15.5ポイント上回っているが、予習は授業を理解するうえで重要であるためその重要性を理解させるとともに習慣づけられるようにしていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、「はい」と答えた割合が33.3%で、県の平均を9.1ポイント上回っているが、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」では、「はい」と答えた割合が36.7%で県の平均を16.2ポイント下回っている。発表の機会を増やし、児童の持つ考えや意見を生かした対話的な授業となるようにしていきたい。

●「毎日、同じくらいの時こくにねている」では、肯定的回答が73.4%で県の平均を6.8ポイント下回っている。また、「授業を集中して受けている」では、肯定的回答が県の平均を5.5ポイント下回っている。生活習慣と心身の健康との関連について指導し、良い生活習慣の確立を目指したい。

宇都宮市立東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ②個に応じた指導と協働的な学びの充実	①ICT(一人一台端末)の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫	・児童質問紙「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問における肯定回答は4年生5年生ともに県の平均を下回っているが、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の設問における肯定回答は4年生5年生ともに県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問における肯定回答は4年生が63.6%、5年生が66.7%と4年生5年生ともに県の平均を下回り課題が見られる。	・児童が自ら意欲的に学習に取り組めるよう、分かる授業を展開する。	・授業場面においてペアトークなど小刻みに共有の時間を設定したり、ICT(一人一台端末)を活用したりすることにより、主体的で協働的な学びの推進を図る。 ・「宇都宮モデル」のはっきり！じっくり！すっきり！を意識し授業を展開することで、分かる授業を目指す。